

第4回農産品物流対策関係省庁連絡会議 議事概要

○日時 平成29年3月21日

○場所 農林水産省6F食料産業局第1・2会議室

○出席者

農林水産省食料産業局長、食品流通課長、生産局長、園芸作物課長、経営局長、協同組織課経営・組織対策室長、政策統括官、穀物課米麦流通加工対策室長、経済産業省商務流通保安審議官、商務流通保安グループ物流企画室長、国土交通省大臣官房物流審議官、総合政策局物流政策課長、自動車局審議官、全国農業協同組合連合会、日本農業法人協会、全国中央市場青果卸売協会、東京青果株式会社、全国青果卸売市場協会、熊本大同青果株式会社、全国青果卸売協同組合連合会、有限会社三秀、全国米穀販売事業共済協同組合、日本物流団体連合会、全日本トラック協会、新日本スーパーマーケット協会

○議事

<中間とりまとめについて>

○農林水産省食料産業局長

- ・本連絡会議は、農産品物流をめぐる厳しい現状や課題について、関係省庁・関係業界で認識を共有し、その解決に向けた取組を連携して進めていくことが目的。今後、中間とりまとめを踏まえ、各関係業界においてどう進めて、具体的な成果へと結びつけていけるかが重要。
- ・農水省としては、関係局長の連名で通知を発出し、所管する各業界において、農産品物流の改善に向けた取組を進めるよう促した上で、各業界の取組を後押しできるよう、支援施策や制度の検討を進めたい。
- ・関係省庁においても、各々の所管する業界が、農産品物流の改善・効率化に対してご理解、ご協力を頂けるよう、業界への周知、取組への働きかけをお願いしたい。

○農林水産省生産局長

- ・農産品の中でも青果物は他の業種と比べて手荷役なども多いため、生産局としても輸送の効率化に積極的に取り組みたい。
- ・大消費地である首都圏への野菜の出荷について、北海道や九州等の遠隔地からの輸送が多く、物流コスト低減の観点からもパレット化や共同輸送が有効と考えており、産地と流通事業者が連携して行う取組を後押ししたい。
- ・輸送の効率化に当たっては、中間とりまとめに基づき、生産、流通、販

売など物流に係る関係者と連携して対応することが不可欠であり、関係の方々と一緒に努力していきたい。

○農林水産省経営局長

- ・本連絡会議の前段として、全農からの要請によりパレチゼーション化の検討を進めてきたが、今回、これをもとに関係者の合意のもと、行動規範という形で中間とりまとめに盛り込まれて良かったと思う。
- ・農業競争力強化プログラムの中で、生産資材だけでなく、流通・加工の構造改革も必要な中、業界と生産者の間を繋ぐ全農の役割は重要だと思っている。全農からの問題提起でパレットに関する行動規範が中間とりまとめに盛り込まれたことを一里塚として、生産者の立場に立った更なる流通の効率化に努めて欲しい。

○農林水産省政策統括官

- ・各品目の流通実態を踏まえた効率的な流通体制の構築が必要。特に、コメについては、産地から卸売業者までの荷姿と卸売業者から実需者までの荷姿が異なっており、産地から卸売業者までの流通における効率化が課題と認識している。
- ・「中間とりまとめ（案）」にあるとおり、産地におけるパレット化やフレコンの活用等の取組を推進するため、①業界団体等を通じ、パレット導入に向けた「関係事業者の行動規範」の周知、②バラ流通に対応した乾燥調製施設等の整備への支援等に取り組んでいく考え。

○経済産業省商務流通保安審議官

- ・資料にもあるが、イオンと花王の間の共同輸配送は効果的。様々なところで人手不足が発生しており、互いに乗り入れられれば効率的であると実感。農産物の場合、より多くの生産者と小売業者が乗り合いした効率的な仕組みを作ることに意味がある。
- ・商慣行については、小売業者と話をしていきたいが、小売業者も人手不足が深刻になっており、一度に大量の荷物が来ても捌けない。いつ、どのように、どれだけのものが来ればお互い効率的なのか。パレット化もそうだが、青果物の規格も地域ごとにバラバラになっていることもあり、そうしたことも含め、より効率化できるのではないか。
- ・需要予測をより精緻化し、最適な発注を行うようにしていきたい。また、IT絡みで様々な情報を交換を円滑化することで効率化できるのではないか。生産者と消費者の間に入る流通として両者の立場に立って取組を

することについては、我々からお願いしたいと思う。

○国土交通省総合政策局物流審議官

- ・農産品に限らず、生産・販売活動からくる物流ニーズが高度化しており、人手不足がまったなしの状況。これは、小口の宅配便だけでなく日本全体の問題であり、生産性の向上により質の高いニーズと供給力の確保を両立させる必要。農産品固有の問題もさることながら、シェアリングエコノミーにより空いている空間や輸送力を徹底的に使うことが重要。
- ・生産性を向上させるポイントは、共同物流とモーダルシフトだと思う。ハブ&スポークで日本の物流はできているが、スポークの部分はミルクランを中心とした共同物流を行い、ハブ間はモーダルシフト及び帰り荷を含めた輸送の効率化を業界のプラットフォームとしてやることが重要。
- ・共同物流については、ビール業界だけでなく、味の素、ミツカン、ハウス食品等でも踏み込んだプラットフォームを作ろうとしており、ケミカルの分野でも同じ。農産品においても、集荷、幹線、配達、ストックを総合的に新たなプラットフォームを作っていくという発想で支援したい。
- ・物流総合効率化法は、多くの方を対象として、プラットフォームを作り、共同物流やモーダルシフトを推進する場合に一定の支援をするという仕組み。多くの財政支援を必要とするものではないが、商慣行を変えることは難しいため、関係省の後押しを得て、農水省の支援も得ながら、農業関係者が共同物流やモーダルシフトを行う新しい取組についてプロジェクト化を進めてもらえるよう応援していきたい。

○国土交通省自動車局審議官

- ・農産品物流については、トラックの手積み手降ろしによる非効率、荷待ちが、長時間労働の一因になっており、そういう課題があることを含めた対策についてとりまとめがなされたことはよかったと考えている。
- ・農産品物流の改善、効率化を進めることは、物流生産性改革や働き方改革においても極めて重要。パレット化は荷役時間が削減できるため、是非取り組むべきものと考えているが、関係者の協力、連携なくしては実現できない。とりまとめを作って終わりではなく、関係者が連携して実現に向け進めることが重要であり、農水省にリーダーシップを発揮してもらい、国交省としても課題解決に向けて一緒に取り組んでいきたい。

○全日本トラック協会

・着実な検討、中間とりまとめについて有り難く思っている。トラック業界として、3点改めてお願いしたい。

- ①農産品物流の問題は多々あり、関係者が連携して取り組む必要があるため、行政が中心となって、関係者が協議するための、できれば恒久的な場を設置してもらいたい。
- ②輸送資材の規格の統一化。各段階でパレットの種類、形状が統一されていないため途中で無駄な積み替えが発生しており、一貫パレチゼーションを推進してもらいたい。また、パレットにあわせたダンボールの統一化にも取り組んで欲しい。
- ③生産量や受発注量の情報の共有化の推進。ITを使って運送業者、生産者、卸売業者の間で情報を共有することを進めてもらいたい。

○物流団体連合会

・中間とりまとめは、あらゆる問題が整理、網羅されていると思う。農産物の特性は、鮮度を維持する必要や地域ロケーションが産物によって違う等あるが、物流業界の立場から必要な対応は、大きく2つあると思う。

- ①できるだけ大ロット化すること。ストックポイントを作り大ロット化することで単位当たりのコストも下がると認識。
- ②手荷役については、パレット化に限らず、ユニットロード化すること。

この2つは、最低限やってもらいたい。

・その上で、商慣行については、改正物流総合効率化法の精神をくみ取って関係者が知恵を出し合って、できるところから変えていくことが重要。最後に、中間とりまとめについては、有効活用して頂き、いつでも閲覧できるようにしてほしい。

○全国農業協同組合連合会

- ・パレチゼーションは最優先で取り組む事項だと思っている。また、共同輸送についても、10tトラックが満載にならない傾向にあり、県内、県を跨がる産地ストックポイントを設けて方面別に共同輸送をかけていく。さらに、消費地にストックポイントを設けることを検討している。ロットをまとめて、10tトラックで輸送しても、5~7か所をまわって荷を下ろすことができないため、各県の品物を消費地で荷さばきして共同配送をかけることを検討している。
- ・物流の合理化、課題解決に取り組んでいこうと考えているので、農水省

を始め関係者の方々の後押しをお願いしたい。

○日本農業法人協会

- ・当協会の会員は、規模も様々であり、流通への意見も様々あるが、昨年の政策提言でも、青果物の規格の統一化・簡素化やICTを活用した新たな民間流通の仕組みや小売業に対して農産物の集荷・分配施設として卸売市場を運用することなどの意見が出ており、解決の糸口が見えるのではないかと考えている。
- ・今後も、会員の意見をくみながら提言していきたいと考えており、また政策提言委員会などの場で情報共有化して、より具体的に活用できればと考えている。

○東京青果株式会社

- ・パレチゼーションの行動規範については、これをどのように使って、浸透させるか。市場から見てもパレット、ダンボールの規格には様々な形態があり、これをとりとめるのは、まだまだ大変。こうしたことを踏まえてパレチゼーション化を進められたらよいと考えている。

○熊本大同青果株式会社

- ・地方卸売市場は、出荷者であり、消費地市場であり、集荷業者でもあり、3つの性格を持っている。共同配送等に取り組む際に、小さな末端の事業者も忘れないで欲しい。様々なことがICT化で改革が進むと思うが、ハブ&スポークのスポークの先では、手作業が発生。
- ・手作業の部分をどう効率化できるかを考えて欲しい。パレットは重たいうえに大きくて置いておくだけで場所を取る。当社としては、費用はかかるが、場所をとらないシートパレットをもう一度使ってみようと思っている。オリコンも同様に置いておくためのスペースだけで大変であり、今後検討して欲しい。

○有限会社三秀

- ・市場においても、中継地点を活用した共同配送により空走を減らす努力をしてきた経験があり、共同輸送は有効だと思う。
- ・生鮮は納品時間が課題であり、小売業者は新鮮な商品売るために朝一に集中する。そのため、小売店舗や物流センターは、場所を確保しておく必要がある、パレットに取り組むうえで、シートパレットの活用など、いかに場所の有効活用をするかについても検討する必要。

また、市場にパレットが大量に滞留しており、パレットがタダだと思っている人も多い。パレチゼーションは効率化等の効果が大きいので、意識改革を徹底してもらい、市場全体でパレチゼーション化を進めたい。

- ・また、物流品の箱の大きさ、形状の統一化も必要。フキや自然薯のような長いことに価値があるものもあるので、今後、細かく検討していきたい。

○全国米穀販売事業共済協同組合

- ・コメは重量物であり、紙袋とフレコンが半々。流通の合理化の観点からは、一貫パレチゼーションとフレコンに取り組んでいきたい。
- ・また、中間とりまとめからは離れるが、コメについては価格をトン単位で表示することやフレコンの資材・量目重量が統一されていないので、そうしたことも含め検討頂けると、物量の大型化に効果があるのではないかと。
- ・物流は川上と川下があって商慣行があり、自分だけでは取り組めないで、関係者が集まって話をする場を作ってもらい、とりまとめをして頂いたことに感謝。業界としても、できる限り効率化に取り組みたいと考えているので、支援の程、宜しくお願ひしたい。

○新日本スーパーマーケット協会

- ・協会の会員は、売上げ 50 ～ 100 億の会員が多く、どう合理化するか難しいが、協会として特に季節品のグロッサリー等について天気予報による需給予測に取り組んでおり、ある食品メーカーでは在庫数が 35% 減少し、効果が出ているとの話も聞いている。
- ・会員は中小が多く、生鮮品については、多くは F A X 等による前日、前々日の発注が商慣行になっていると考えられる。これからは I T 等を活用して需要予測を出せるか、中小にとっては荷が重い、商慣行をどう変更できるかが、今後の大きな課題となってくると思う。
- ・物流関係者、市場関係者の苦労が浮き彫りになったことを会員に周知し、小売としてどう対応し生産性を上げることが出来るか、経産省の指導のもと進めていきたい。

以上